©2022 YHAL, YITP, Kyoto University
京都大学基礎物理学研究所　湯川記念館史料室

S.50.9.1(月)
夕刊
新日本朝日
第3種郵便物認可

自由な交流の実現を

国際間の信頼強化必要

ソ連の反体制知識人アンドレイ・サハロフ氏が、京都のパグウオッシュ会議に寄せた「特別アピール」の全文は次の通り。

サハロフ氏のアピール全文

三十年前、広島と長崎で起こった悲劇は、この地球上の一人の人間であり、同時に原子物理学者である私を、ずっと揺さぶり続けています。もし、理性と心のやさしさが、相互不信、恐怖、どん欲、憎悪に打ちかち得ないなら、地球はおそろしい廃墟になってしまうかもしれません。

人類に迫り迫っている破局の原因が、二十世紀の科学の偉大な発見、あるいは、人間が生来持っている何か魔物のような性質に潜んでいるとは、この会議に参加しているみなさんのだれ一人、思ってもみなかった、と私は思います。逆に、この世界に、百年前にはまったく手に入れることができなかったような豊かさをもたらす力を、科学は持っていると、私たちは今でも信じています。人間は白人でも、黒人でも、黄色人種でも、また、資本家、労働者、学者を問わず、信仰者か無神論者か、社会主義者か保守主義者かにかかわらず、長所と短所を持っていることを知っています。

私は、ここで世界の危機的な状況をひき起こしている複雑な原因を分析しようとは思いません。これについての私の考え方（もちろん、主観的で、論議を呼びそうなものですが）は、最近、西側で近く公表する「私の祖国と世界」で述べたつもりです。しかし、私は、この会議で討議される問題と関連があると思われるいくつかの点を手短に述べたいと考えます。

現在、人類の前に立ちはだかっている多くの問題の中で、軍縮問題が最重点であることは、みなさんも異論のないところだと思います。しかし、国際的信頼の強化、社会主義諸国の閉鎖性の克服なしに、軍縮問題の解決はありません。緊張緩和の最も重要な目的は、核兵器の完全禁止と完全撤廃でなければならない。この目的は、緊張緩和は、軍縮を完全に国際管理下に置くことも、極めて重要な意味を持っています。ソ連と他の社会主義諸国の懸念がとくに強硬で建設的でない、という問題はあります。しかし、粘り強く取り組むべきです。国際査察団の創設が必要です。この査察団は、査察対象国のすべての地域を自由に訪れる権利を持つものです。この種の前例はすでに、いくつかあります。スパイ行為は永久に追放しなければなりません。将来は、「軍事機密」「秘密作業」「秘密により公表禁止」いとった言葉が、何のことか理解に苦しむ時代にならなければなりません。

こうした「開かれた世界」への移行は、もちろん一歩一歩進められるものでしょう。その第一歩は、世界人権宣言の第十三条と第十九条の実現です。つまり、合法的な行為に基づく人と情報の自由な交流――一つの国から他の国への自由な旅行、居住国の自由な選択（国内での居住の選択はもちろん、自由でなければなりません）。それと、ラジオ、テレビ放送の自由と書簡の国際的な自由販売。このどれもが、国際的な信頼と安全保障に直結しているのです。

軍縮のより細部にわたる問題をできるだけ早く、理性的に解決することは、非常に重要です。危険な新兵器研究の中止、核弾頭製備の戦略ロケットの禁止、ロケット迎撃防衛網建設と戦略的に不安定さを生むその他の要因の制限――などについて話し合いをつめることです。こうした具体的な問題が、この会議で実務的に討議されることを望みます。

国際的な安全保障を強化するためには、軍事産業面で高度に発達した国から、開発途上国への武器の供給、とくに軍事的な紛争が現に起こっているか、あるいは紛争が予測される国への供給を禁止することが、非常に大きな意味を持っている、と私は考えます。この禁止は、人道的な意味だけでなく、世界の安定性を高める要因にもなるでしょう。なぜなら現在、大国にとって武器の供給は、影響力を拡大するための戦いの中で、最も重要な手段の一つになっているからです。武器の供給禁止は、開発途上国の軍国主義化をおさえ、これらの国の平和的な経済発展に役立つはずです。

ソ連で公表されたわずかな資料と、非公式なルートで入手した資料に基づいて、私は、長年の間、パグウォッシュ会議の仕事を大きな関心を持って見守ってきました。残念ながら、会議がしばしば国家の方針の非公式なさぐり合いの域を出ていない、との印象を持っているのです。また、世論への影響という機能が実質的に果たされていないと考えます。なかでも科学の世界とそれぞれの政府に対して、そうだと思うのです。

将来、パグウォッシュ会議が世界の世論に大きな影響を与え、それによって、それぞれの国の為政者たちの政策に影響を及ぼしていくことを望みます。

一九七五年七月十日

アンドレイ・サハロフ

監視の壁抜け国外持ち出し

サハロフ氏はソ連異端派運動の頂上にいる。しかも「外国人と接触し、情報を提供した」として、検察当局から厳重警告を受けている身。だが、この監視の壁をくぐりぬけ、特別アピールはモスクワから京都まできた。

パグウォッシュ会議筋によれば、サハロフ氏がこのアピールを書き終えたのは七月十日。それが、七月二十五日には国外に持ち出されていた。航空便できたわけではない。外国から学者や代表団がモスクワを訪れるが、郵便ポストの代わりに、こうした人たちのポケットを借りた可能性が強い。

日本のチェコ研究者の話では、ヨーロッパには、チェコスロバキアからの亡命者を支援する組織があるという。「こうした組織も直接、間接、情報交換の役割を果たしているのではないか」という。

c092-17-021